

【ジュネーブ＝原克彦】

「パナマ文書」の発覚で租税回避地（タックスヘイブン）のパナマは税の透明性を高めると世界に約束した。すでに脱「秘密主義」を決めたスイスの銀行は他国との口座情報交換や検査当局の捜査に協力的になった。当初懸念された資金流出も起きなかった。だが、ここに来て秘密主義に回帰するよう求める動きが出てきた。

衝撃 パナマ文書 The Panama Papers

「秘密主義回帰を」 スイスに波乱の芽

スイス金融の秘密主義を巡る動き

2009年	大手銀行UBSが米国人の顧客情報を米当局に提供、罰金を払う
13年 1月	米当局に脱税ほう助の罪を認めたスイス最古のプライベートバンクが廃業
9月	スイス銀行家協会が脱税ほう助の罪を認め、米国や他の国との情報交換に応じると表明
14年 5月	大手銀行クレディ・スイスが米当局に約2860億円の罰金を払うことで合意
15年 3月	銀行が情報提供と罰金支払いの見返りに起訴を免れる米・スイス合意の第1号案件。16年1月末までに合計78件にのぼる
16年 1月	日本とスイスが口座情報の自動交換を確認する共同声明
4月	パナマ文書が発覚

右派議員が憲法改正案 国民投票も浮上

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密

な世界のオフショア資産の25%を預かり、断トツだ。チューリヒ大学のプライベートバンキングの研究でも資金の流入と流出の差は10年以降、1千億〜2千億ドルのプラスが続く。

変化が見られない理由はいくつか考えられる。一つはパナマのように秘密主義を維持した国・地域のペーパーカンパニーを通じてスイスに資産を預ける手口があまり減らなかったことだ。

パナマ文書が発覚した事例では、ロシアのプーチン大統領の友人が当てはまる。「モサク・フオンセカ」が設立を手助けした会社を経由して「ガスプロムバンク」の

チューリヒ支店にお金を入れていたと報じられた。パナマは法人設立の手続きで稼ぎ、資産運用で一日の長があるスイスが資産を預かる構図が浮かび上がる。

もう一つは地政学上のリスク。「顧客がシンガポールに流れるとの見方もあったが、南シナ海で中国の動きを見ると不安になるようだ」。スイス大手銀行の関係者はこう言う。

スイス銀行の秘密主義は元をたどれば、貴族や富裕層が内乱などで資産を失うことがないよう培われた経緯がある。各地の軍事的な緊張を受け、永世中立が見直された可能性もある。

運用ノウハウなどで強みを出そうとするスイスの銀行を不安にしているのが、秘密主義への回帰を求める運動だ。右派政党の一部議員が原則として口座情報の提供を禁じる憲法改正案を示し、すでに国民投票に必要な署名を集めた。可決されれば逆戻りだ。

「銀行の責任が重くない他国への情報提供を拒んだ結果、海外の支店が罪に問われ、営業できなくなる恐れがある。直接民主制が浸透したスイスでは国民投票の決定がすべて。これが新たな波乱要因になりかねない。

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密

は昨夏。国際サッカー連盟（FIFA）の汚職事件で金融機関から疑わしい取引など100件を超える情報提供を受けた。かつてのスイスでは考えにくい出来事だった。スイス銀行の厳格な秘密